

文部科学省委託事業

平成 27 年度

職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進 平成 27 年度
「Ⅲ.「職業実践専門課程」に係る取組の推進(ⅱ)「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進」事業

自動車整備専門学校における職業実践専門課程の 第三者評価について

報告書

平成 28 年 3 月

JAMCA

全国自動車大学校・整備専門学校協会

文部科学省委託事業

平成 27 年度

『職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進 平成 27 年度「Ⅲ.「職業実践専門課程」に係る取組の推進（ii）「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的取組の推進」事業』

【自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について】

成果報告書 目次

第 1 章 事業の概要	3
1. 事業名	
2. 事業概要	
3. 事業実施期間	
4. 事業の推進体制	
第 2 章 事業の背景・目的及び内容	7
1. 事業の背景	
2. 事業の目的	
3. 事業の内容	
4. 成果の活用方法	
第 3 章 実施経緯とスケジュール	15
1. 実施経緯とスケジュール	
2. 会議議事録	
第 4 章 第三者評価等啓発企画員会	67
1. 今年の活動方針・啓発活動・成果等のまとめ	
2. 組織的な啓発活動会	
3. アンケート調査結果と解説	

第5章 第三者評価 実証実験企画委員会	117
1. 今年の活動方針・実施事業	
2. 第三者評価項目の立案	
3. 第三者評価組織と実証スケジュール	
第6章 第三者評価結果について	129
1. 評価結果目次	
2. 第三者評価 実証実験結果	
第7章 今年度事業のまとめ	179
1. 今年度事業結果	
2. 事業内容の考察と今後の課題	
第8章 考察・講評	189
1. 考察・講評	

第 1 章 事業の概要

1. 事業名
2. 事業概要
3. 事業実施期間
4. 事業の推進体制

第1章 事業の概要

1. 事業名

「自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について」

2. 事業概要

昨年度職業実践専門課程のスタート後、専門学校の質保証・向上を行うためには各専門分野の特性を活かした評価が必要と考え、昨年度事業に取り組んだ。その結果 JAMCA における第三者評価の現状、基本的考え方、骨子、体制方向性についての取りまとめを行った。

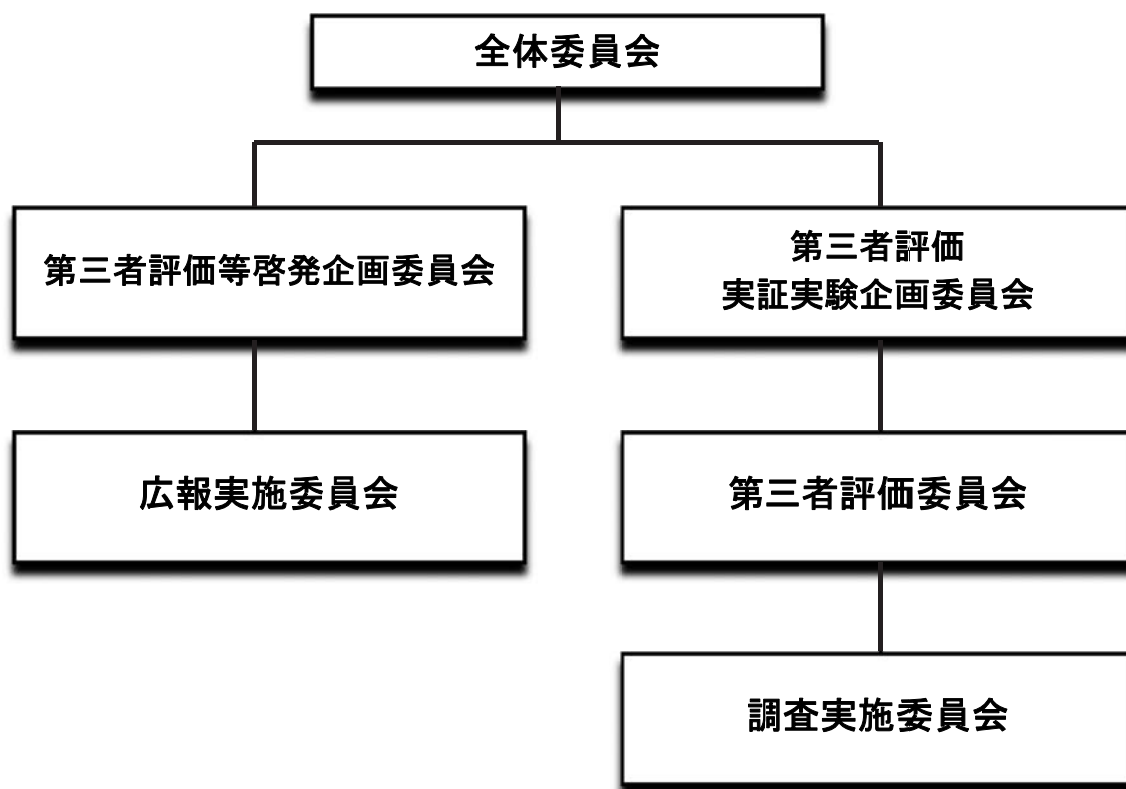
今年度「新たな高等教育機関」が中央教育審議会に諮問されており、会員校でも「新たな高等教育機関」「職業実践専門課程認定校」「専門学校」といった教育体制の多様化が進むことが予想される。このように多様化する教育体制の中での会員校の共通課題は、社会的ニーズに応え、社会の理解を得るための教育の質の保証や、職業実践的な能力を持った若者を輩出し自動車産業界の発展に寄与するための教育力の向上である。そのための JAMCA 会員校の質保証・向上の取り組みには、自動車整備専門学校としての特性を活かした第三者評価が必要であると考え、今年度も継続して事業に取り組むこととした。今年度は昨年度完成に至らなかった第三者評価基準・項目・システム・組織、受審体制の策定を行い、実際に2校を対象に実証実験を実施し JAMCA としての第三者評価の実施体制の構築を目指す。

また現状 JAMCA 会員校でも職業実践専門課程の認定を受けている学校は26年度50校中22校、第三者評価実施校はゼロであり、職業実践専門課程や第三者評価に対する認識が十分に浸透しているとは言い難い。このような状況を踏まえ職業実践専門課程や第三者評価に対する啓発活動が必要と考え、研修会・意見交換会を実施する。

3. 事業実施期間

平成27年6月19日～平成28年3月11日

4. 事業の推進体制



- 全体委員会

JAMCA の第三者評価のあり方（評価基準・項目・システム・評価組織等）について精査検討する。併せて事業全体の取りまとめを行う。

- 第三者評価啓発等委員会

第三者評価についての啓発活動及び職業実践専門課程のレベルアップを図る。

啓発に関わる検討のほかに、第三者評価に関する資料集の作成等も検討し、啓発活動の推進にあたる。

- 第三者評価 実証実験実施委員会

実証実験のシステム、実施内容の構築のほか、作業部会として第三者評価の調査委員会を設け、第三者評価のシミュレーションを試みる。（実験対象校は2校）

第 2 章 事業の背景・目的及び内容

1. 事業の背景
2. 事業の目的
3. 事業の内容
4. 成果の活用方法

第2章 事業の背景・目的及び内容

1. 事業の背景

いま自動車整備専門学校の教育は、大きな曲がり角に立っている。

近年のクルマの技術は、機械的な作動に電気・電子技術と情報処理技術を応用した電子制御技術が導入されてきている。自動車整備教育もそれに対応して変化していかなくてはならないが、従来の機械整備を経験した指導者の多くが電子工学の基礎を理解して教育を実施する者の数が限られているのでこの点を変革しなくてはならない。

電子制御システムを多く採用した自動車としてハイブリッド車や電気自動車、燃料電池車などが開発、販売されその占有率は大幅に増加してきた。

自動車各部での電子制御による高性能化は、各部の作動の物理変化を電氣的に検出できるセンサと電気信号を受けてメモリ内のプログラムによって演算し、情報処理回路（ECU：エレクトロニック・コントロール・ユニット）から出た電気信号によりクルマ各部を動かしている。このように自動車は機械的に動くのではなく電気・電子的に動いている。

これらの進化した車の性能と安全を維持するためには、高度化された整備技術により従来の点検・整備を行うのではなく診断・整備を行うことが求められている。

クルマの整備は、1, 2, 3 級自動車整備士の国家資格を持ったものが実施することが法的に定められているので、整備士は高度な電子知識と技術が要求されるようになっていく。

しかし、企業は有能な人材を多数、希求している現状であるにもかかわらず、少子化や若者のクルマ離れ、大学への進学熱などの理由により自動車整備を学び職業にしようとする若者が減少している。

このような現状を踏まえ、産学官が一体となり様々な課題を解決していかなくてはならないため、JAMCA は自動車整備を目指す若者が教育の質を保証された中で興味あるカリキュラムのもとで学び、産業界に求められる人材となるよう本事業を実施する。

2. 事業の目的

自動車大学校、整備専門学校は、電子制御化により進歩した自動車技術に対応できる産業界が要求する整備士としての人材をいかに提供するかが求められている。

今回の事業では、整備士養成分野が国土交通省（国）により養成施設指定基準を定められ、ほぼ3年に1度監査が実施されるという特性を踏まえた JAMCA 独自の第三者評価の実施体制構築を目指し、社会の求める整備士の育成が行われているかを

実証実験により確認・検証を行いたいと考えている。またその結果を今後の学校教育の質保証・向上、社会に対する説明責任を果たす体制づくりに活かしていきたい。

3. 事業の内容

1) 全体委員会

目的：27年度に実施する「第三者評価等啓発企画委員会」「第三者評価 実証実験企画委員会」の事業の検討及び対象校に対してなされた実証実験、最終評価、委員会における討議内容、会員校からの聞き取り等を踏まえ今後のJAMCAの第三者評価の在り方（評価基準・項目・システム・評価組織等）について精査検討する。併せて事業全体の取りまとめを行う。

体制：JAMCA 会員校 3 校に官・業界・学校関係の有識者が加わり組織

開催回数：3 回 7、10、2 月

氏名		構成機関(学校・団体・機関等)の名称・職名	役割等	都道府県名
1	齋木 寛治	専修学校中部国際自動車大学校 理事長	事業全体の取りまとめ	岐阜県
2	平井 一史	専門学校静岡工科自動車大学校 校長	事業についての企画・立案、 報告書の取りまとめ	静岡県
3	佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校 校長	事業についての企画・立案、 報告書の取りまとめ	東京都
4	樋口 忠夫	元国土交通省 自動車交通局 技術安全部長	事業についての国・業界の立場 からのアドバイス	東京都
5	丸山 憲一	元日本自動車車体整備協同組合連合会 会長	事業についての自動車整備業界 の立場からのアドバイス	新潟県
6	森 真人	岐阜トヨタ自動車株式会社 人事部長	事業についての自動車販売・整備 業界の立場からのアドバイス	岐阜県
7	小谷 将彦	元専門学校東京自動車大学校 校長	技術教育・学校教育運営等につ いてのアドバイス	東京都
8	中川 兼彦	元国土交通省 中部運輸局 整備課長	技術教育・学校教育運営等につ いてのアドバイス	岐阜県
9	大西 純一	全国自動車大学校・整備専門学校協会 (JAMCA) 事務局長	報告書の取りまとめ、事務処理	東京都

2) 第三者評価等啓発企画委員会

目的：第三者評価についての啓発活動及び職業実践専門課程のレベルアップを図る。啓発等に関わる検討のほかに、作業部会として広報実施委員会を設け第三者評価に関する資料集の制作等も検討し、啓発活動の推進にあたる。

A. 会員校を中心とした研修会・意見交換会の実施（東京・大阪で実施）

ア）職業実践専門課程認定校による運営活動発表

イ）自動車整備専門学校における第三者評価職業実践専門課程の必要性・内容・実施について

ウ）第三者評価に対する会員校の意見聞き取り

B. 広報実施委員会

上記研修会等での使用も念頭においた第三者評価・職業実践専門課程資料集の制作を検討（既存の資料の活用も含め）し、最も効果の高い資料を利用することにより第三者評価に対する認識の浸透、レベルアップを図る。

体制：静岡工科自動車大学校を中心に職業実践専門課程認定校 8 校により実施

開催回数：A. 5 回（7, 9, 10（2 回）, 2 月）

B. 5 回（7, 9, 10（2 回）, 2 月）

A. 第三者評価等啓発企画委員会

	氏名	構成機関(学校・団体・機関等)の名称・職名	役割等	都道府県名
1	平井 一史	専門学校静岡工科自動車大学校 校長	第三者評価の啓発活動、職業実践専門課程のレベルアップ	静岡県
2	大橋 健次	専門学校新潟国際自動車大学校 校長	第三者評価の啓発活動、職業実践専門課程のレベルアップ	新潟県
3	齋木 裕司	専修学校中部国際自動車大学校 校長	第三者評価の啓発活動、職業実践専門課程のレベルアップ	岐阜県

B. 広報実施委員会

	氏名	構成機関(学校・団体・機関等)の名称・職名	役割等	都道府県名
1	小林 完	専門学校東京工科自動車大学校世田谷校 校長	第三者評価・職業実践専門課程の資料集制作等	東京都
2	山田 恵一	専門学校北日本自動車大学校 広報部長	第三者評価・職業実践専門課程の資料集制作等	北海道
3	今西 朗夫	専門学校日産京都自動車大学校 日産・自動車大学校学長	第三者評価・職業実践専門課程の資料集制作等	京都府

4	水野 正生	専門学校トヨタ名古屋自動車大学校 理事・総務部長	第三者評価・職業実践専門課程の資料集制作等	愛知県
5	中原 勝宣	九州工科自動車専門学校 校長	第三者評価・職業実践専門課程の資料集制作等	熊本県

3) 第三者評価 実証実験企画委員会

目的：実証実験実施にあたり以下の活動を行う。実証実験のシステム、実施内容の構築のほか、作業部会として第三者評価の調査委員会を設け、第三者評価のシミュレーション及び実施。（実証実験は2校を予定している）

A. 第三者評価基準・評価項目等の設定と評価システムの構築

昨年度作成した骨子案の第三者評価の内容と体制の考え方をベースとして、具体的な評価基準・項目の設定、評価システムを構築する。評価基準・項目等を作成するにあたり、第三者評価を実施している団体・学校等からヒアリングを実施。併せて第三者評価基準・項目等をまとめた資料集の作成も検討する。

B. 第三者評価委員会

受審校より提出された自己点検評価、調査実施委員会で作成された評価報告書の確認・検討・とりまとめの実施。

C. 調査実施委員会

作成された評価基準・評価項目・評価システムに従い実際の評価を実施する。事前に評価の基準・項目等について勉強・検討会を実施し、評価委員のレベルアップ・統一化を図る。また評価対象校への自己評価の依頼・聞き取り・分析等を実施し、第三者評価委員会での最終評価につなげる。自己点検評価・評価報告書の確認・審査を実施。

体制：東京工科自動車大学校を中心に職業実践専門課程認定校11校により実施

開催回数：A. 委員会4回（7, 8, 9, 2月）ヒアリング1回（7月）

B. 第三者評価委員会1回（12月）

C. 調査実施委員会 7回（9, 11[4回], 2月）

A. 第三者評価 実証実験企画委員会

	氏名	構成機関(学校・団体・機関等)の名称・職名	役割等	都道府県名
1	佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校 校長	第三者評価基準の作成・評価 項目設定・システムの構築	東京都
2	榎本 俊弥	専門学校読売自動車大学校 校長	第三者評価基準の作成・評価 項目設定・システムの構築	東京都
3	清末 裕貴	専門学校北九州自動車大学校 教務課長	第三者評価基準の作成・評価 項目設定・システムの構築	福岡県
4	野上 悟	専門学校 YIC 京都工科大学校 教務課長	第三者評価基準の作成・評価 項目設定・システムの構築	京都府
5	古澤 幸治	専門学校広島自動車大学校 副理事長 校長	第三者評価基準の作成・評価 項目設定・システムの構築	広島県
6	飯島 邦彦	関東三菱自動車販売株式会社 総務部担当部長	第三者評価基準の作成・評価 項目設定・システムの構築	東京都
7	佐藤 広	株式会社 関東マツダ 総務部人財開発グループ	第三者評価基準の作成・評価 項目設定・システムの構築	東京都

B. 第三者評価委員会

	氏名	構成機関(学校・団体・機関等)の名称・職名	役割等	都道府県名
1	齋木 寛治	専修学校中部国際自動車大学校 理事長	自己点検資料の確認・評価報 告書の原案の審査等	岐阜県
2	樋口 忠夫	元国土交通省 自動車交通局 技術安全部長	自己点検資料の確認・評価報 告書の原案の審査等	東京都
3	丸山 憲一	元日本自動車車体整備協同組合連合会 会長	自己点検資料の確認・評価報 告書の原案の審査等	新潟県
4	小谷 将彦	元専門学校東京自動車大学校 校長	自己点検資料の確認・評価報 告書の原案の審査等	東京都
5	中川 兼彦	元国土交通省 中部運輸局 整備課長	自己点検資料の確認・評価報 告書の原案の審査等	岐阜県
6	大西 純一	全国自動車大学校・整備専門学校協会 (JAMCA) 事務局長	自己点検資料の確認・評価報 告書の原案の審査等	東京都
7	平井 一史	専門学校静岡工科自動車大学校 校長	オブザーバー	静岡県
8	佐藤 康夫	専門学校東京工科自動車大学校 校長	オブザーバー	東京都

C. 調査実施委員会

	氏名	構成機関(学校・団体・機関等)の名称・職名	役割等	都道府県名
1	古澤 幸治	専門学校広島自動車大学校 副理事長 校長	実証実験の実施、第三者評価 委員会への報告	広島県
2	高岡 能正	専門学校日産栃木自動車大学校 校長	実証実験の実施、第三者評価 委員会への報告	栃木県
3	橋本 暁夫	専門学校群馬自動車大学校 校長代行	実証実験の実施、第三者評価 委員会への報告	群馬県
4	合津 正彦	専門学校関東工業自動車大学校 事務局マネージャー	実証実験の実施、第三者評価 委員会への報告	埼玉県
5	高橋 博	専門学校東京自動車大学校 副校長	実証実験の実施、第三者評価 委員会への報告	東京都
6	藤川 龍彦	専門学校トヨタ東京自動車大学校 教育部次長	実証実験の実施、第三者評価 委員会への報告	東京都
7	遠藤 禮一郎	熊本工業専門学校 副学長	実証実験の実施、第三者評価 委員会への報告	熊本県

4. 成果の活用方法

本事業の成果は、報告書として取りまとめ JAMCA 会員校、専修学校関係者へ配付する。

事業成果報告書規模：400 冊

第 3 章 実施経緯とスケジュール

1. 実施経緯とスケジュール
2. 会議議事録

第3章 実施経緯とスケジュール

1. 実施経緯とスケジュール

本事業「自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について」は平成27年6月19日に受託し、平成28年3月まで事業を実施した。その間に「全体会議」：1回、「全体委員会」：3回、「第三者評価等啓発企画委員会」：4回、「広報実施委員会」：5回、「第三者評価 実証実験企画委員会」：4回、「第三者評価実証実験企画委員会・ヒアリング調査」：1回、「第三者評価委員会」：1回、「調査実施委員会」：7回を開催した。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
全体会議	○							
全体委員会	○			○				○
第三者評価等啓発企画委員会	○		○	○				○
広報実施委員会	○		○	○ (2回)				○
第三者評価 実証実験企画委員会	○	○	○					○
第三者評価 実証実験企画委員会 ・ヒアリング調査	○							
第三者評価委員会						○		
調査実施委員会	○		○		○ (4回)			○

2. 会議議事録

本事業における実施委員会の実施報告は以下の通りである。

全体会議

会議名	第1回全体会議
開催日時	平成27年7月13日（月） 午後1時00分～午後2時00分
場所	専門学校 東京テクニカルカレッジ（東京中野区東中野4-2-3 地下1階テラホール）
出席者	専修学校中部国際自動車大学校 齋木寛治 理事長 文部科学省 専修学校教育振興室 星川正樹 専門官 元国土交通省 自動車局 樋口忠夫 技術安全部長 元日本自動車車体整備協同組合連合会 丸山憲一 会長 元国土交通省 中部運輸局 中川兼彦 整備課長 専門学校東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 専門学校静岡工科自動車大学校 平井一史 校長 元専門学校東京自動車大学校 小谷将彦 校長 JAMCA 大西純一 事務局長 専修学校中部国際自動車大学校 齋木裕司 校長 専門学校新潟国際自動車大学校 大橋健次 校長 専門学校東京工科自動車大学校世田谷校 小林完 校長 専門学校北日本自動車大学校 山田恵一 広報部長 九州工科自動車専門学校 中原勝宣 校長 専門学校日産京都自動車大学校 今西朗夫 日産・自動車大学校学長 専門学校トヨタ名古屋自動車大学校 水野正生 理事・総務部長 専門学校読売自動車大学校 榎本俊弥 校長 専門学校北九州自動車大学校 清末裕貴 教務課長 専門学校YIC京都工科大学校 野上悟 教務課長 関東三菱自動車販売株式会社 飯島邦彦 総務部担当部長 専門学校日産栃木自動車大学校 高岡能正 校長 専門学校群馬自動車大学校 橋本暁夫 校長代行 専門学校関東工業自動車大学校 合津正彦 事務局マネージャー 専門学校東京自動車大学校 高橋博 副校長 専門学校トヨタ東京自動車大学校 藤川龍彦 教育部次長 熊本工業専門学校 遠藤禮一郎 副学長

議題等	【会議の目的】 ・各委員会メンバーの自己紹介の実施 ・昨年度の事業活動の報告 ・今年度の事業計画の説明 【次第】 1. 開会 2. 参加委員の挨拶 3. 26 年度の事業内容と 27 年度の事業計画の概要 4. 第三者評価等啓発企画委員会の概要 5. 閉会 【内容】 ◆参加委員の挨拶 ・齋木理事長の挨拶 ・来賓の挨拶（文部科学省 専修学校教育振興室 星川正樹 専門官） － 職業実践専門課程を通じた、専修学校における質保証の向上の推進事業である。 － 昨年度は 8 分野で第三者評価の枠組みについて検討し、今年度は 3 分野が増え、11 分野で事業を進める。 － 今年度は、第三者評価を具体化し、実証する。 →専修学校における質保証の高度化のため、必要になる事業である。 － 客観的に判断できるような第三者評価は重要であり、来年度ぐらいまで継続する。 →実証実験を行うため、本年度は重要な年になる。 ・今年度の委員の紹介及び挨拶 ◆26 年度の事業内容と 27 年度の事業計画の概要 ・JAMCA 会員校の内、職業実践専門課程の認定校 13 校をメンバーに初年度（昨年度）をスタートし、今年度は 22 校で行う。 ・昨年度事業の概要の説明を行う。 － 第三者評価の知識レベルを上げるために、ヒアリング調査、アンケート調査を行った。 － ヒアリング調査では、自動車以外の分野でヒアリングを行った。 － 第三者評価の骨子を作成した。 ・JAMCA としての現状の説明を行う。 － 国土交通省の監査により国からの評価を受けていることや、教育の質向上に積極的に取り組んでいるなど他分野とは異なる組織である。 － 国家資格の合格率、出口の確保 － 自己点検の取り組みも進んでいる。 →自己点検だけでは、社会からの認知をもらえていない
-----	---

	→第三者評価を行う必要がある。第三者評価の意識付け（啓発活動）をするのが大切である。 ・ 第三者評価の考え方 － 教育の質向上を外に発信する必要がある、全ての学校において共通の課題である。 － 第三者評価を実施するために、JAMCA 独自に特徴を出したものをすることが必須課題となる。 ・ 第三者評価の骨子 － 機関別評価、分野別評価を軸に置いて作成する。 →JAMCA では効果的、効率的なものにする。 →JABEE のような評価機構を参考に、独自の機構を作る。 ・ 第三者評価の体制（案） － JAMCA との関係性を持った第三者評価機関を作る。 － 自己点検を軸にした評価にする。 － 評価者の訓練も併せて行っていく。 ・ 今年度の概要 ① 組織的な啓発活動 第三者評価についての意識を会員校に広めていく。 ② 第三者評価項目とシステムの策定 ③ 第三者評価の実証実験 シミュレーションになる。評価委員は、委員にメンバーになってもらう。 ・ 推進体制 各委員の説明を行う。 ・ 今年度のスケジュールの確認 実証実験を含め、12 月中に終了する。1 月、2 月は取りまとめ期間とする。 ◆第三者評価等啓発企画委員会の概要 社会的（企業）に認知してもらうため、第三者評価が必須になる。 職業実践専門課程の必要性和第三者評価の導入を啓発するため、研修会及び意見交換会を実施する。
--	---



全体委員会

会議名	第1回全体委員会
開催日時	平成27年7月13日（月） 午前11時00分～午後12時00分
場所	専門学校 東京テクニカルカレッジ（東京中野区東中野4-2-3 1101号室）
出席者	専修学校中部国際自動車大学校 齋木寛治 理事長 元国土交通省 自動車局 樋口忠夫 技術安全部長 元日本自動車車体整備協同組合連合会 丸山憲一 会長 元国土交通省 中部運輸局 中川兼彦 整備課長 専門学校東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 専門学校静岡工科自動車大学校 平井一史 校長 元専門学校東京自動車大学校 小谷将彦 校長 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	【会議の目的】 ・今年度事業の活動内容の確認。 【次第】 1. 開会 2. 本日のスケジュールについて 3. 今年度の事業計画について 4. 事業（各委員）のスケジュールについて 5. 専門職業大学について 6. 合同全体会議について 7. 閉会 【内容】 ◆開会 ・昨年度事業の報告書完成のお礼 ・今年度の第三者評価に関する事業の説明 ・6/11に文部科学省と国土交通省の担当官を交えて行われたJAMCAの第53回の総会についての説明 －今年度の事業の承認が行われた。 －自動車整備士不足の現状について議論される。 ・昨年度事業における文部科学省からの要望についての説明 ◆スケジュールについて 13：00～ ：全体会議（次第について説明） 14：00 過ぎ～ ：平井先生、佐藤先生の各委員会

	◆今年度の事業計画について ・ 第三者評価の詳細（組織、評価項目等）を詰め、会員校で実証実験を行う。 ・ 現状認識では、自己評価 80%、学校関係者評価 60%、第三者評価は 0%の実施率である。 →第三者評価について、会員校に認識してもらう必要がある。（啓発） ・ JAMCA 独自のものを考えてゆくために・・・ →コストを低減し、評価項目等を簡素なものにする。ダブリを省く。 ・ 調査実施委員会において会員校の 2 校程度で、実際に第三者評価を実施する。 ・ 第三者評価委員会では、実証実験での評価結果の妥当性や評価者のレベルの確認をする。 ◆事業（各委員）のスケジュールについて 今年度事業のスケジュールの説明 第三者評価委員会については、他委員会の進捗を見てから開催日を判断する。 ◆専門職業大学について 資料「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の在り方について」の説明 ※補足 - 2019 年から実施する。 - 新たな高等教育機関が認可されると、現在の大学・短大から降りてくる懸念がある。 ◆合同全体会議について ＜佐藤先生より＞ ・ 新たに参加する会員校のために、昨年度の活動報告 ・ 第三者評価の現状 ・ 実証実験における JAMCA の考え方 ・ 実証実験の推進体制と啓発委員会について、及びスケジュールの説明 ・ 文部科学省等の新しい情報を共有しながら進めてゆく ＜平井先生より＞ ・ 啓発企画委員会についての説明 ・ 昨年実施したアンケートの流れの説明 ・ 研修会及び意見交換会 ◆質疑応答 ●今年度末の職業実践専門課程はどれくらいになるか？ 30 校前後？（昨年度は 22 校） →職業実践専門課程の認定を受けるための期間がかかり過ぎる。 →期間を短くするように、要望した方が良いのではないか。
--	---

	●専門職業大学と JAMCA の活動の兼ね合い （専門職業大学でも職業実践専門課程でも）学校としての社会的認知を受けるためにも、第三者評価は必要になる。 →そのために独自の第三者評価機関を作る必要がある。 ※文部科学省の考え方（今後の方針）についても今後確認する。
--	--



会議名	第2回全体委員会
開催日時	平成27年10月6日（火） 午後1時00分～午後3時00分
場所	JAMCA 事務所（東京都新宿区大京町31番地 ヴィップ新宿御苑1101号）
出席者	専修学校中部国際自動車大学校 齋木寛治 理事長 元国土交通省 自動車局 樋口忠夫 技術安全部長 元日本自動車車体整備協同組合連合会 丸山憲一 会長 元国土交通省 中部運輸局 中川兼彦 整備課長 専門学校東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 専門学校静岡工科自動車大学校 平井一史 校長 元専門学校東京自動車大学校 小谷将彦 校長 岐阜トヨタ自動車株式会社 森真人 人事部部長 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	【会議の目的】 第三者評価等啓発企画委員会・広報実施委員会、及び第三者評価実証実験企画委員会・調査実施委員会の活動報告 【配付資料】 ・資料① 専門学校新聞（9月号 2015.9.15付） ・資料② JAMCA ニュース（No.87 2015.10.1付） ・資料③ 第三者評価等啓発企画委員会・広報実施委員会 研修会関連資料 7種 ・資料④ 第三者評価実証実験企画委員会・調査実施委員会 活動内容資料 JAMCA 第三者評価全体委員会 資料-0 ・資料⑤ JAMCA 自動車整備士養成分野における第三者評価基準一覧表（H27 実証実験資料） ・資料⑥ 専門学校の評価項目・指標等を検討する際の視点となる例 【次第】 1. 開会 2. 齋木委員長挨拶 3. 第三者評価等啓発企画委員会・広報実施委員会 活動報告 4. 第三者評価実証実験企画委員会・調査実施委員会 活動報告 5. 意見交換 6. 閉会 【内容】 ◆開会 ・開会の挨拶、及び本日の議事についての説明を行う。 ・初参加委員の紹介と挨拶。

◆齋木委員長の挨拶

専門学校新聞、JAMCA ニュースの説明を行う。(資料①、②参照)

- ・職業実践専門課程の認定を受けていない学校は、早々に認定を取得すべきである。
- ・質の保証が一番大切になってくる。

◆第三者評価等啓発企画委員会・広報実施委員会 活動報告

- ・研修会についての説明を行う。(資料③参照)
- ・2ヶ所で研修会を実施する。
 - 大阪会場：10/14（水）13:30～15:30 私学会館にて開催（参加 17 校）
 - 東京会場：10/16（金）13:30～15:30 テラハウスにて開催（参加 23 校）
- ※研修会は非会員校も出席する。
- ※事前調査では、第三者評価の詳細、職業実践専門課程の申請方法等の説明を希望している。
- ・研修会は、以下の内容にて行う。
 - 学校評価のイメージの説明（自己点検、学校関係者評価、第三者評価）
 - JAMCA の現状の説明
 - 職業実践専門課程の概要と取得までのプロセスについて
 - 第三者評価の必要性について
 - 職業実践専門課程の認定校から、職業実践専門課程取得までのプロセスの説明
 - 意見交換（相談コーナーを設けて行う）
- ・各研修会の主催者の挨拶は、大阪では今西先生、東京では水野先生とする。
- ・研修会で、「学校評価を活かした専修学校の質保証・向上に向けて」「職業実践専門課程～実践事例～」の資料を参加校に配布する。
- ・東京会場では文部科学省専修学校教育振興室の星川正樹専門官が出席する。
- ・研修会で参加校にアンケートを配付し、後日返送してもらう。
- ・第三者評価の委託事業は、3 カ年計画。
- ・JAMCA 会員校 50 校中、32 校が参加する。(非会員校は 32 校中、13 校が参加)

◆第三者評価実証実験企画委員会・調査実施委員会 活動報告

- ・JAMCA としての第三者評価項目の原案を作成し、今年度、第三者評価実証実験を実施する。
- ・実証実験を行う委員と勉強会へ参加した。
 - 事例（他校の現状報告）の説明を受ける。
 - 細かい評価項目を決めている印象。(小項目についても細分化されている)
 - JAMCA では、よりシンプルな評価項目とする。(他校に周知し、手間暇を省くため)
 - 文部科学省の意見では、第三者評価項目と自己点検評価項目とは異なる旨の指摘を受ける。
 - 第三者評価は第三者が評価項目を決めて評価を行うものであるため、自己点検評価項目とは別に作成する必要がある。
- ※今回の実証実験では、自己点検評価項目を使用する。報告書で留意する必要がある。

	・職業実践専門課程の認定要件の評価もするよう、文部科学省より要望があった。 － 第三者評価は、職業実践専門課程の認定校が対象であるため、職業実践専門課程の認定要件を第三者が評価してほしい。 ・現状の活動報告を行う。(資料④～⑥参照) ・「自動車整備専門学校・自動車大学校選択への利便性の向上」を追加した。 →内容を公開し、透明性を持たせるため。 ・第三者評価の基本構成についての説明。 ・JAMCA 第三者評価の観点について 3 本柱を 4 本に変更した(「職業実践専門課程要件適合評価」を追加) 1. 自己点検評価に対する評価(評価結果は各校の HP に有) - 文部科学省の推奨評価項目: 調査委員が事前に把握し、現地調査する(資料⑤「Ⅰ」) ※文部科学省からの配付資料(資料⑥参照)を観点に、調査委員が評価する 2. 職業実践専門課程認定要件への適合(資料⑤「Ⅱ」参照) 3. 国土交通省自動車整備士養成施設指定基準(資料⑤「Ⅲ」参照) - 分野別機関評価に相当する。国土交通省の監査結果資料を見て評価する。 ※監査の受審より変更があった場合は、変更届を確認する。 4. 教育の質保証・特徴化に向けた取り組み(資料⑤「Ⅳ」参照) - 各校が自ら発信して報告し、それを評価する。 →評価項目を決めずに、各校から発信してもらう。 →今回の評価の JAMCA の特徴である。 ※負荷を掛けずに評価ができる。 ・今後の活動予定について 1. 実証実験(訪問調査) ●北九州自動車大学校 － 11/11(水) 事前打ち合わせ － 11/12(木) 訪問調査実施 ※オブザーバー参加 － 11/23(月) 迄 レポート提出(調査委員作成) ●読売自動車大学校 － 11/17(火) 事前打ち合わせ － 11/18(水) 訪問調査実施 ※オブザーバー参加 － 11/30(月) 迄 レポート提出(調査委員作成) ※レポートは、事務局に送付する。 ※12/2(水)までに報告書の附属書類を送付する。 2. 第三者評価委員 - 報告書、調査書類で評価を行う。 － 12/18(金) 第三者評価委員で評価会議実施 － 12/24(木) 迄 評価報告書の作成、及び第三者評価受審校への通知
--	---

	3. 異議申し立て 1/14（金）迄 異議申し立ての受け付け ※異議があった場合は、審査会を召集し再審議する。（日程未定） ・最終的な報告書の参考として、他業種の専門学校の見本を閲覧する。 ・調査票、報告書等のフォーマットは後日作成。 ◆意見交換 ・第三者評価受審校2校の評価項目は同じものか？ →同じである。 →小項目がしっかりしていないと、評価者間で個人差が生じる恐れがある。 →評価結果にバラつきが出ないように、文部科学省の評価観点を参考に共有する。（資料⑥参照） ・分野別評価について - 職業教育を色濃くするためには、分野別の評価を取り入れる必要がある。 - JAMCA としては、国土交通省の監査結果を基に行う評価を分野別評価とし、それを特徴とする。 ・職業実践専門課程の認定校に対する、文部科学省の監査はあるのか？ →文部科学省の監査はないが、都道府県での監査は行っている（専門学校は、県の管轄になるため）。ただし、都道府県によって内容が異なる。 ・将来、JAMCA 会員校以外の学校が対象になったときの評価はどのようなことが想定されるのか？ →各校の評価結果や特徴については、HPに掲載することによって、周知されてゆく。 ・第三者評価と職業実践専門課程の関係性について 本来、第三者評価と職業実践専門課程は別物である。よって、職業実践専門課程の認定を受けなくても、第三者評価を受けることはできる。 しかし、第三者評価項目に「職業実践専門課程認定要件への適合」があるため、第三者評価は職業実践専門課程の認定を前提とした評価になる。 ・第三者評価会議について 12/18（金）12：30～17：00（終了時間は未定） ※報告書に対応するように、評価内容を詰める。 ※調査実施委員会の評価結果を事前に送付する。
--	--



第三者評価等啓発企画委員会および広報実施委員会

会議名	第1回第三者評価等啓発企画委員会・広報実施委員会合同会議
開催日時	平成27年7月13日（月） 午後2時20分～午後3時30分
場所	専門学校 東京テクニカルカレッジ（東京中野区東中野4-2-3 地下1階テラホール）
出席者	専門学校静岡工科自動車大学校 平井一史 校長 専修学校中部国際自動車大学校 齋木裕司 校長 専門学校新潟国際自動車大学校 大橋健次 校長 専門学校東京工科自動車大学校世田谷校 小林完 校長 専門学校北日本自動車大学校 山田恵一 広報部長 九州工科自動車専門学校 中原勝宣 校長 専門学校日産京都自動車大学校 今西朗夫 日産・自動車大学校学長 専門学校トヨタ名古屋自動車大学校 水野正生 理事・総務部長
議題等	【会議の目的】 ・委員会メンバーの自己紹介の実施 ・第三者評価等啓発企画委員会の活動概要についての説明 【次第】 1. 開会 2. 活動概要 3. 質疑応答 4. 閉会 【内容】 ◆第三者評価等啓発企画委員会の活動概要 ・第三者評価等啓発企画委員会と広報実施委員会とで分かれているが担当を分けるのではなくこのメンバー全員で一緒に活動してゆく。 ・現在 JAMCA 会員校では第三者評価を実施している学校はなく、この一年間で第三者評価を受けられる形作りをするのが、主な活動となる。 ◆具体的活動内容 ・第三者評価についての研修会 ・第三者評価についての研修会を実施するが、職業実践専門課程取得のための研修会ではない。 ・第三者評価を受けるためには学校関係者評価等の仕組みが必要となり、職業実践専門課程を促す形となる。 ・職業実践専門課程の認定校を増やすことが結論として第三者評価の分野別評価につながってくる。 ・専門学校は質の向上が必要でそれを第三者に認めもらう時代になったということを促してゆく。 ・職業実践専門課程取得校と未取得校では温度差があるので話し方は抑えてする必要がある。

	・ JAMCA 会員校以外にもアナウンスを行う。 ・ JAMCA 会員校の職業実践専門課程取得校 22 校に対して未取得校が気軽に質問ができる環境を作るためにリストを作成する。(学校名・校長名・担当者名を記載) ・ 第三者評価についての研修会は東京と大阪で開催予定だが、東京は新潟国際自動車大学校、大阪は中部国際自動車大学校に幹事校を担当してもらう。(内容に関しては平井校長と要相談、会場・進行・案内など)。体験・事例は東京工科自動車大学校世田谷校の小林校長が担当(東京・大阪ともに 1~1.5 時間)。必用性についての話は平井校長が 30 分ほど担当。 ・ 研修会後に相談の会を設ける、東京は北日本自動車大学校 山田先生、トヨタ名古屋自動車大学校 水野先生が担当する。大阪は日産京都自動車大学校 今西校長、九州工科自動車専門学校 中原校長が担当する。 ・ JAMCA 会員校以外(約 50 校)に研修前に各校の状況把握のためのアンケートを採っては？ →往復はがきで案内を出し、簡単なアンケートに答えてもらう方法をとる。 ・ 研修会開催時期は平井校長よりフォーマットを送るので 10 月の予定で OK な日にちを記入し集計の後、展開する。 ・ 研修会では JAMCA の取り組み(評価項目など)を進捗によっては紹介する。 *ただし、全体会議にて承認が得られた場合による。 ・ 次回委員会は 9 月初旬を予定。調整して平井校長より展開する。
--	--



会議名	第2回第三者評価等啓発企画委員会・広報実施委員会合同会議
開催日時	平成27年9月14日（月） 午後1時30分～午後3時00分
場所	JAMCA 事務所（東京都新宿区大京町31番地 ヴィップ新宿御苑1101号）
出席者	専門学校静岡工科自動車大学校 平井一史 校長 専門学校新潟国際自動車大学校 大橋健次 校長 専門学校東京工科自動車大学校世田谷校 小林完 校長 専門学校北日本自動車大学校 山田恵一 広報部長 九州工科自動車専門学校 中原勝宣 校長 専門学校日産京都自動車大学校 今西朗夫 日産・自動車大学校学長 専修学校中部国際自動車大学校 中川兼彦 副校長 専門学校東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 元専門学校東京自動車大学校 小谷将彦 校長 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	【会議の目的】 ・研修会案内文の内容検討 ・研修会当日の次第、及び資料等の確認 ・第三者評価実証実験企画委員会の活動状況報告 【配付資料】 ・資料① 研修会の案内状 ・資料② H27年度文部科学省委託事業 研修会案内送付先（非会員校） ・資料③ 自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価についての研修会次第 ・資料④ 研修会 進行プログラム ・資料⑤ 「自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について」の説明イメージ ・資料⑥ 第三者評価実施に向けたアンケート調査 ・資料⑦ 職業実践専門課程 認定校一覧 ・資料⑧ 職業実践専門課程における第三者評価の在り方の方向性について ・資料-0 平成27年度「JAMCA 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業 ＜JAMCAにおける第三者評価項目の検討＞ 【次第】 1. 開会 2. 研修会について 3. 研修会の案内状について 4. 研修会次第について 5. 第三者評価実証実験企画委員会について 6. 閉会

【内容】

◆開会

- ・来月に東京と大阪で研修会を行う。
- ・研修会の案内状を発送しなければならないため、案内状、及びその他配付資料の内容を検討、修正してゆく。

◆研修会について

10月14日に大阪、16日に東京で研修会を行う。

司会進行担当：大阪会場は中川先生、東京会場は大橋先生

委員を2グループに分けて、大阪、東京の研修会をサポートする（5名ずつ）。

◆研修会の案内状について

研修会の案内状について検討を行う。＜資料①、②参照＞

- ・アンケート欄に、質問事項の記入欄を設ける。
 - 職業実践専門課程の申請に向けて聞きたいことや、すでに認定を受けている学校においては現状の問題点などの質問事項を予め記載してもらう。
- ・外部評価としての第三者評価を啓発することが前提であるため、職業実践専門課程のアンケートに絞らず、自己点検評価実施、職業実践専門課程の申請、第三者評価実施の有無をアンケートに追加する。
 - 研修会不参加校の実態を把握するためにも、アンケートに加える。
 - 学校評価（自己点検評価、学校関係者評価、第三者評価）についての実施の有無
 - 職業実践専門課程について
- ・職業実践専門課程についてのアンケートを、「認定済み、今年度申請予定、今後申請を予定、受けない」に変更する。
- ・JAMCA 会員校以外（32校）へも、往復はがきで案内を出す。
- ・問い合わせ先（JAMCA 事務局）を追加する。
- ・前文に、文部科学省委託事業である旨と研修会の目的を追加する。
- ・返信締め切りは、10月2日とする。

◆研修会次第について

研修会次第についての説明を行う。＜資料③、④参照＞

- ・参加者同士の意見交換会を行うようにする（閉会の前）。
 - 参加人数により、10名以上の場合は、適宜グルーピングして行う。
- ・大阪会場の開始時間は13:30、会場入りは12:45。よって、委員の集合時間を12:30とする。東京会場も同様とする。
- ・研修会当日の必要書類として、職業実践専門課程の提出書類を各校持参する（1課分、2年課程）。
- ・職業実践専門課程を中心として、評価の大切さを伝える。
- ・次第3.「自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について」の内容については、資料⑤参照。

	◆研修会で実施するアンケートについて アンケートの内容について検討を行う。＜資料⑥参照＞ ・アンケート問 15 (P. 3) 解答欄①に、学課名、年制を追加する。 ・アンケート冒頭に、自動車整備士養成課程について問い合わせる旨を追加する。 ・研修会当日にアンケートを渡して、後日返信してもらう。 ◆職業実践専門課程の認定校の一覧について（資料⑦） 担当者を追記して、配付資料とするか。 →JAMCA の会員校に啓発したいため、研修会では配布しないものとする。 ◆第三者評価実証実験企画委員会について 第三者評価実証実験企画委員会の概略説明を行う（資料-0、⑧参照）。 ・第三者評価の基本構成、評価の観点（文部科学省が示す方向性）については、資料⑧参照。 ・JAMCA の第三者評価は、3 つの柱で評価を行う。 － 自己点検評価に対する評価（機関評価に相当・部分的に分野別に関連） － 養成施設指定基準に基づく評価（分野別機関評価） － 分野の質保証・特徴化取り組み評価（分野別評価） ・第三者評価実証実験企画の各委員と審査対象校（読売自動車大学校、北九州自動車大学校）の紹介、及び活動スケジュールの説明を行う。 ・先日行われた評価者研修での文部科学省からの指摘事項。 － 各校が行っている自己点検評価項目をそのまま第三者評価として扱うのは別物である。 →今年は自己点検評価をベースとして、第三者評価を行う。 →将来的には、JAMCA 独自のものが必要かもしれない。 ・外部評価（第三者評価）が当たり前になるときに、JAMCA として第三者評価の共通知識を持つことが大切である。 ◆意見交換 ・平成 27 年 3 月版の文部科学省が進める委託事業についての資料を研修会時に用意する。 ・研修会当日は、1 時間前（12：30）に集合する。 ・職業実践専門課程の申請に用いた規定集などの見本等、参考資料として配布するか。 →各校の判断に任せる。 ・自己点検評価と学校関係者評価（職業実践専門課程）は過程であり、三者評価の啓発が第一目標である。
--	--



会議名	第3回第三者評価等啓発企画委員会・広報実施委員会合同会議 文部科学省受託事業 第三者評価・職業実践専門課程についての研修会【大阪会場】
開催日時	平成27年10月14日（水） 午後1時30分～午後3時30分
場所	大阪私学会館（大阪府大阪市都島区網島町6-20）会議室303
出席者	専門学校静岡工科自動車大学校 平井一史 校長 専門学校東京工科自動車大学校世田谷校 小林完 校長 専修学校中部国際自動車大学校 中川兼彦 副校長 九州工科自動車専門学校 中原勝宣 校長 専門学校日産京都自動車大学校 今西朗夫 日産・自動車大学校学長 JAMCA 大西純一 事務局長
研修会 参加者	会員校 阪和鳳自動車工業専門学校 皆見量政 設置者 阪和鳳自動車工業専門学校 皆見長代 様 西鉄自動車整備専門学校 椎葉小夜子 校長 鹿児島工学院専門学校 上野純 自動車工学科科長 専門学校岡山自動車大学校 原田公德 校長 専門学校YIC京都工科大学校 杉山征人 校長 専門学校YIC京都工科大学校 野上悟 教務課長 専門学校日産京都自動車大学校 川上宏美 学校長 専門学校第一自動車大学校 吉田智博 教務課長 専門学校トヨタ神戸自動車大学校 大田英一 総務部次長 専門学校日産愛知自動車大学校 藤岡隆男 校長 専門学校広島工学院大学校 半明英幸 校長 非会員校 日本理工情報専門学校 竹端真弓様 阪神自動車航空鉄道専門学校 藤本剛 理事 阪神自動車航空鉄道専門学校 西村東一郎 事務長 岡山科学技術専門学校 内田修 教員 専門学校穴吹工科カレッジ 谷本正暢 副校長 専門学校穴吹工科カレッジ 大門剛 教務課長 久留米工業技術専門学校 西田健一 工学部次長 久留米工業技術専門学校 野口義夫 教務課長
議題等	【研修会の目的】 自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価についての認知活動 【配付資料】 ・資料① 研修次第 ・資料② 「自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について」

- ・資料③ 「自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について」
(履修改革・教育の質保証から職業実践専門課程を経て第三者評価へ)
- ・資料④ 文部科学省資料
「職業実践専門課程における第三者評価の在り方の検証の方向性について」
- ・資料⑤ 職業実践専門課程についてのご案内
- ・資料⑥ 職業実践専門課程 ～実践事例～
- ・資料⑦ 学校評価を活かした専門学校の質保証・向上に向けて
- ・資料⑧ 参加者アンケート
- ・資料⑨ 参加者アンケート 返信用封筒
- ・資料⑩ 封筒(角2)

【次第】

1. 研修会開会
2. 主催者挨拶
3. 自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について
4. 「職業実践専門課程認定校に至るまで」の経緯
5. 質疑応答
6. 閉会

【内容】

◆研修会開会

専修学校中部国際自動車大学校 中川兼彦 副校長

- ・開会の挨拶、及び本日の進行についての説明を行う。

◆主催者挨拶

専門学校日産京都自動車大学校 今西朗夫 日産・自動車大学校学長

「各校におかれては、日々教育の質を向上するために切磋琢磨されていると思います。その中で本日のテーマである第三者評価についても大変重要であると我々は認識しています。すでに多くの学校は自己評価、学校関係者評価等を実施されていると思います。第三者評価についてはまだまだ進んでいないところも多いかと思います。その中でまずは学校関係者評価、職業実践専門課程を確実に実施することによって教育の質を上げていき、その先に第三者評価を実施してゆくことが重要だと我々は考えています。自動車関係の専門学校で協力しながら教育の質を上げてゆくことに取り組んでいきたいと考えています。」

◆自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について

専門学校静岡工科自動車大学校 平井一史 校長

- ・資料②「自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について」を基に講義を行う。

◆「職業実践専門課程認定校に至るまで」の経緯

専門学校東京工科自動車大学校世田谷校 小林完 校長

- ・資料③「自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について」（履修改革・教育質保証から職業実践専門課程を経て第三者評価へ）を基に講義を行う。

◆質疑応答

質問：第三者評価は現在、実施義務にはなっていないが何年後に義務化になるのでしょうか？

回答：新学校種でも第三者評価はマストとなっているので、実施時期は明確にはなっていないが早まる可能性はある。早めの準備が必要と考える。

質問：第三者評価は JAMCA が各学校へ行って実施することになっているのか？

回答：分野別評価として文部科学省から認定される認証機関ができる可能性はあるが未定である。

◆閉会

専修学校中部国際自動車大学校 中川兼彦 副校長

- ・閉会の挨拶

◆個別質問コーナー

質問：非会員校なので、情報がなかなか入ってこない。今後このようなセミナーは行うのですか？

回答：文部科学省事業の中で行うセミナーは今回だけです。JAMCA 事務局にお問い合わせいただければ出せる情報と出せない情報はありますが、対処できます。



会議名	第4回第三者評価等啓発企画委員会・広報実施委員会合同会議 文部科学省受託事業 第三者評価・職業実践専門課程についての研修会【東京会場】
開催日時	平成27年10月16日（金） 午後1時30分～午後3時30分
場所	専門学校 東京テクニカルカレッジ（地下1階テラホール）
出席者	専門学校静岡工科自動車大学校 平井一史 校長 専門学校東京工科自動車大学校世田谷校 小林完 校長 専修学校中部国際自動車大学校 中川兼彦 副校長 専門学校トヨタ名古屋自動車大学校 水野正生 理事・総務部長 専門学校北日本自動車大学校 山田恵一 広報部長 専門学校新潟国際自動車大学校 大橋健次 校長 文部科学省 専修学校教育振興室 星川正樹 専門官 JAMCA 大西純一 事務局長
研修会 参加者	会員校 専門学校埼玉自動車大学校 菊地孝司 校長 横浜テクノオート専門学校 久留島勲 教頭 横浜テクノオート専門学校 飯田知久 様 専門学校群馬自動車大学校 大嶋敦 教務部長 専門学校東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 専門学校読売自動車大学校 榎本俊弥 校長 専門学校千葉県自動車大学校 竹中正浩 学校長 ホンダテクニカルカレッジ関東 山田幸昌 校長 専門学校関東工業自動車大学校 合津正彦 事務局マネージャー 専門学校関東工業自動車大学校 神原実 教務部主任 専門学校東京工科自動車大学校世田谷校 湊谷健 教務部長 専門学校千葉県自動車総合大学校 山田和弥 学校長 （専）中央自動車大学校 正示彰 校長 専門学校日本自動車大学校 林英伸 教頭 専門学校日本自動車大学校 鶴澤滋人 総務部長 専門学校神奈川総合大学校 鈴木朝子 理事長 専門学校神奈川総合大学校 鈴木織江 理事 専門学校東京工科専門学校品川校 竹尾和也 校長 非会員校 専門学校北海道自動車整備大学校 澤口保志 事務部部长 専門学校国際情報工科大学校 村上史成 副校長 専門学校水戸自動車大学校 郡司秀彦 部長 筑波研究学園専門学校 伊能正登 自動車整備工学科学科長 つくば自動車整備専門学校 亀山和人 教務部長 専門学校東海工科自動車大学校 内山貴夫 副校長

	富士メカニック専門学校 渡辺英和 校長 専門学校麻生工科自動車大学校 安部倫太郎 校長代行
議題等	【研修会の目的】 自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価についての認知活動 【配付資料】 ・資料① 研修次第 ・資料② 「自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について」 ・資料③ 「自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について」 (履修改革・教育の質保証から職業実践専門課程を経て第三者評価へ) ・資料④ 文部科学省資料 「職業実践専門課程における第三者評価の在り方の検証の方向性について」 ・資料⑤ 職業実践専門課程についてのご案内 ・資料⑥ 職業実践専門課程 ～実践事例～ ・資料⑦ 学校評価を活かした専門学校の質保証・向上に向けて ・資料⑧ 参加者アンケート ・資料⑨ 参加者アンケート 返信用封筒 ・資料⑩ 封筒(角2) 【次第】 1. 研修会開会 2. 主催者挨拶 3. 自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について 4. 「職業実践専門課程認定校に至るまで」の経緯 5. 質疑応答 6. 閉会 【内容】 ◆研修会開会 専門学校新潟国際自動車大学校 大橋健次 校長 ・開会の挨拶、及び本日の進行についての説明を行う。 ◆主催者挨拶 専門学校トヨタ名古屋自動車大学校 水野正生 理事・総務部長 「各校におかれては、日々教育の質を向上するために切磋琢磨されていると思います。その中で本日のテーマである第三者評価についても大変重要であると我々は認識しています。すでに多くの学校は自己評価、学校関係者評価等を実施されていると思います。第三者評価についてはまだまだ進んでいないところも多いかと思います。その中でまずは学校関係者評価、職業実践専門課程を確実に実施することによって教育の質を上げていき、その先に第三者評価を実施してゆくことが重要だ

と我々は考えています。自動車関係の専門学校で協力しながら教育の質を上げてゆくことに取り組んでいきたいと考えています。」

◆来賓挨拶

文部科学省 専修学校教育振興室 星川正樹 専門官

- ・研修会開催にあたり主催者と参加者に対するお礼。
- ・専修学校は今年で 40 周年を迎える。専修学校制度は、緩やかな設置基準の元、都道府県が地域の実情に応じて学校・学科を認可してゆく制度である。
- ・一方、文部科学省の有識者会議の中では、以下のような指摘があった。

「制度として職業等に必要な能力の育成を目的に掲げており、社会的ニーズに弾力的に応えて多様な職業教育を展開し、実践的な知識や技術・能力等を育成しているが、教員数や施設設備に関する基準が緩やかなものとなっており、また第三者評価が制度化されておらず、その柔軟な制度的特徴から教育の質が必ずしも保証されたものとなっていない」
- ・平成 26 年度から質の向上を目指し、職業実践専門課程制度を設けて 2 年が経過した。
- ・職業実践専門課程の 2 つの意義は以下。
 - 各校と企業との連携を一对一の個人的つながりから、組織的なものにする。
 - 専修学校の質保証の観点から、「見える化」するという。
- ・文部科学省の委託事業の第三者評価については、質保証の最たるものである。
- ・学校評価の内、自己点検評価・学校関係者評価は評価自体を各校が取り決めて評価を行うのに対し、第三者評価は、評価項目・評価者の全てが外部である第三者が行うものである。
- ・専修学校に第三者評価を直ちに導入するわけではないが、他の高等教育機関が実施しているため、無関心でいるわけには行かない。ただし、専修学校では職業分野が幅広いため、一つの基準で第三者評価を実施することは、ほぼ不可能である。
- ・今年度は、実証実験まで事業を進め、来年度に他の分野と統合して一つの大きな基準を作る。ただし専修学校全体に汎用できないため、分野的な部分と汎用性のある部分の二つを使って第三者評価を構築するように考えている。
- ・現在、中央教育審議会の特別部会で、高等教育機関の制度化に関する審議が現在まで 5 回行われている。次回の第 6 回（10/21）開催では、年制や教員等、審議が具体化されてゆくことが予想される。質保証である第三者評価も審議項目に加わるため、皆様には素晴らしい基準を作っていただきたい。
- ・高等教育機関の審議がある中で専修学校制度がなくなるわけではない。職業実践専門課程は、質保証向上の意味で実施されているため、認定を受けていない学校は、前向きに検討していただきたい。

◆自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について

専門学校静岡工科自動車大学校 平井一史 校長

- ・資料②「自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について」を基に講義を行う。

◆「職業実践専門課程認定校に至るまで」の経緯

専門学校東京工科自動車大学校世田谷校 小林完 校長

- ・資料③「自動車整備専門学校における職業実践専門課程の第三者評価について」（履修改革・教育質保証から職業実践専門課程を経て第三者評価へ）を基に講義を行う。

◆質疑応答

質問（専門学校麻生工科自動車大学校 安部倫太郎 校長代行）：

教育改革をやることによって、学生の変化や教職員のモチベーションを上げるためにどのような対策を行っているのか？

回答（専門学校東京工科自動車大学校世田谷校 小林完 校長）：

学生自身は、絶えず勉強するなど、意識が変化している。

教職員は、授業シフトの改善やサブテキストなどの学生が理解しやすい資料作りをし、学生を技術者に育てるための共通認識を持っている。

課題は絶えずあるが、その都度解決して進め、試行錯誤しながら教育改革に取り組んでいる。

質問（筑波研究学園専門学校 伊能正登 自動車整備工学科学科長）：

今後の新たな高等教育機関と職業実践専門課程との関係はどのようなものなのか？

回答（文部科学省 専修学校教育振興室 星川正樹 専門官）：

職業実践専門課程の成り立ちにおいて、新たな枠組みを作ることと、既存の枠組みを活かす方向性があった。新たな枠組みのものとして高等教育機関の制度化があり、既存の枠組みを活かすものとして職業実践専門課程がある、という関係である。

職業実践専門課程の認定校が高等教育機関になるわけではない。

高等教育機関の有識者会議の方向性（文部科学省の HP 参照）で取り上げられている要素は、職業実践専門課程の認定要素と重複しているため、共通項がある。

今年度内には中間まとめがされるので、会議資料や議事録等は文部科学省の HP を参照していただきたい。

◆閉会

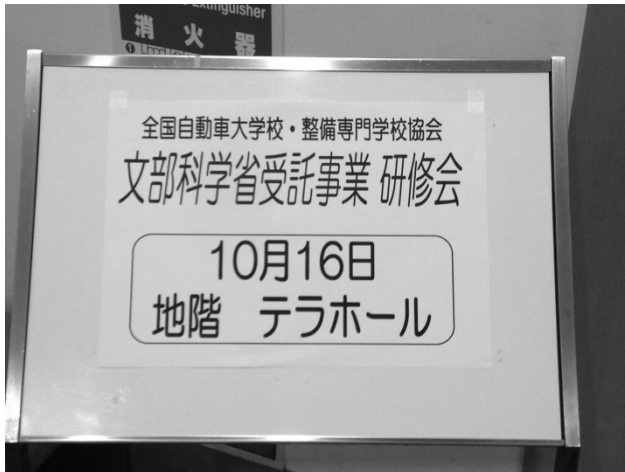
専門学校新潟国際自動車大学校 大橋健次 校長

- ・閉会の挨拶

◆個別質問コーナー

質問：申請時の評価委員や各種編成委員のメンバーは、重複してもいいのか？

回答：重複しても大丈夫です。



第三者評価 実証実験企画委員会および調査実施委員会

会議名	第1回ヒアリング調査（第三者評価実証実験企画委員会）
開催日時	平成27年7月3日（金） 午後1時30分～午後3時00分
場所	私立専門学校等評価研究機構（東京都渋谷区代々木1-58-1 石山ビル6階）
講師	私立専門学校等評価研究機構 真崎 裕子 事務局長
出席者	専門学校東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	【会議の目的】 専門学校の評価機構における第三者評価実施についての聴取（柔道整復師養成分野の状況） 【次第】 1. 開会 2. 柔道整復師養成分野の状況聞き取り 3. 質疑応答 4. 閉会 【内容】 第三者評価実施（柔道整復師養成分野）の状況 ・評価結果の表現は「厳しく評価される」という印象をもたれないように「良い点」と「さらなる向上を期待する点」とした。文部科学省からは評点がないとの指摘を受けたがモデル実証を行い、委員会で検討を行う。 ・評価結果を公表することを前提としているのが、各学校はそのことを気にしているようだ。 ・モデル実証校（3校）は、昨年の活動で部会に参加いただいた学校にお願いしている。 ・評価委員の選考はモデル実証校からも参加いただき、8月の中旬までに決定する予定。 ・8分野が11分野に増えている（動物関係・調理関係・ホテル関係）。 質疑応答 昨年の柔道整復師養成分野での報告内容は評価の観点は段階的な評価を行うというイメージを持ったのだが、今回の最終評価のイメージはどのようなものか？ → 第三者評価基準項目チェックシートの内容で評価を行う。 ・学校側へ説明を行う際にチェックシートまで落とし込まないと理解できない現状があった。 ・チェックシートに大・中・小項目があるが、学校へは中項目の単位で報告書を書いてもらう。 ・極端な話、チェック項目通りに箇条書きしてもらえばいいように作成。 ・この順番で記述されていれば、評価者の手間も省ける。評価委員へ教育も楽に行える。 JAMCAの現状はここまで細かく落とし込まれていないが、基本的には評価機構の自己点検評価項目のガイドラインに基づいて作成している。柔道整復師養成分野も同じ考え方か？ → その通り。従来行っているやり方に落とし込んでいる。

	そこに分野別の特色を付加している？ → ・その通り。小項目「柔道整復師としての社会的責任を果たす～」などが分野別の特色である。 ・学校運営は共通であるが、教育に関しては分野別の内容を書いている。 JAMCA は国土交通省の監査を受けており監査内容が重複しているが、柔道整復師養成分野も厚労省の監査を受けており、重複箇所はどのような建て付けになっているか？ → 重複箇所については特に分けていない。監査現場では厚労省へ提出した書類で確認を行う。 評価機構で行なっている第三者評価（機関評価）と分野別評価の違いはあるか？ → 大きな違いはないが、法令順守の項目を内部質保証という括りで再構成した（文部科学省の意向）。また、各項目に「特徴のある取り組み」を追加し、評価機構の自己評価は 4 段階になっているが、3 段階（今行っていること、アピールすること、今後の課題）に変更しシンプルにしている。 評価委員はどのような方？ → 現在評価機構で経験している方 1 名（部会長）、学校関係者 2 名（プロジェクト参加校）、新たなメンバーと開業している先生で構成する予定。ここで評価書を見て原案作成する。 重要なことはバランスをとることと、公表しても大丈夫な文章かをチェックすること。 評価機構で作成した評価項目は流用しても良いか？ → 特に問題ない。 その他 <佐藤校長> 昨年の事業では 8 分野の中で、評価機構とタイアップした柔道整復師養成分野が経験的にも豊富な組織で大幅に先行しており、参考となる。他分野は手探りで進めており JMCA では第三者評価を実施している学校がない中活動しているが、会員校へ理解してもらい浸透させるためには段階的なプロセスが必用であろう。 <真崎事務局長> ・評価者は 8 月中旬決定、8 月末に評価者研修会を実施する予定。（6 時間位） ・基本的（一般的）な評価者訓練を評価機構で実施する予定で、文部科学省と時期について調整中。 （8 月下旬？） ・文部科学省としては標準化を打ち出しているが、各分野で特色を出しても良いと考える。 ・学校評価検討部会へは JAMCA から 1 名出してほしい（4 回ほど）。 ・連絡調整会議の開催については調整がつけば 7 月下旬から 8 月上旬に実施予定。 ・フォーラムは昨年同様、東京と大阪で各 1 回開催予定。
--	--



会議名	第1回第三者評価実証実験企画委員会及び第1回調査実施委員会 合同会議
開催日時	平成27年7月13日（月） 午後2時20分～午後3時10分
場所	専門学校 東京テクニカルカレッジ（東京中野区東中野4-2-3 地下1階テラホール）
出席者	専門学校東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 文部科学省 春田鳩磨 係長 元専門学校東京自動車大学校 小谷将彦 校長 専門学校読売自動車大学校 榎本俊弥 校長 専門学校北九州自動車大学校 清末裕貴 教務課長 専門学校YIC 京都工科大学校 野上悟 教務課長 関東三菱自動車販売株式会社 飯島邦彦 総務部担当部長 専門学校日産栃木自動車大学校 高岡能正 校長 専門学校群馬自動車大学校 橋本暁夫 校長代行 専門学校関東工業自動車大学校 合津正彦 事務局マネージャー 専門学校東京自動車大学校 高橋博 副校長 専門学校トヨタ東京自動車大学校 藤川龍彦 教育部次長 熊本工業専門学校 遠藤禮一郎 副学長
議題等	【会議の目的】 ・委員会メンバーの自己紹介の実施 ・第三者評価実証実験企画委員会の活動概要についての説明 ・第三者評価の評価項目についての説明 【配付資料】 ・資料① 平成27年度「JAMCA 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業計画 ・資料② JAMCA 自動車整備士養成分野における第三者評価基準一覧表（試案） ・資料③ 専門学校における第三者評価の方向性に関する資料 【次第】 1. 開会 2. 第三者評価実証実験企画委員会の活動概要 3. 第三者評価の評価項目について 4. 第三者評価の方向性について 5. 今後の事業の流れと次回開催日の調整 6. 閉会 【内容】 ◆参加委員の挨拶 各委員のメンバーの自己紹介を行う。

◆第三者評価実証実験企画委員会の活動概要（資料①参照）

- ・ 第三者評価についての説明を行う。
- ・ 自己点検・自己評価を受けて、第三者評価が義務化されてゆく。
 - どこかで第三者評価を受けなければならないが、現状は、業界の内容に精通していない機構が評価を行っている。
 - JAMCA 独自の効果的な第三者評価体制を作る必要がある。
- ・ 半年間で、業界独自の評価項目を決めてゆく。
- ・ 策定した評価項目に基づいて、第三者評価（実証実験）の準備をしてゆく。
- ・ 2校ほどで第三者評価のシミュレーションを行う（JAMCA の評価機構の組織で行う）。
- ・ 現段階でのシミュレーションの想定内容
 - 実施校：東京（読売）と九州（北九州）
 - 上記の場合、決められた評価項目で東京が九州、九州と関西が東京で評価を行う。
 - 最終的な評価者：樋口様、丸山様、中川先生、小谷先生など（案）
 - 企画委員会：第三者評価実証実験企画委員
 - 第三者評価委員：代表者（5名）（案）
 - 調査実施委員会：調査実施委員の中から選出
 - 審査会：第三者評価の異議申し立てに対する審査
 - 全体のメンバーの中から選出
- ※シミュレーションなので、負担を少なくする
- ※自己点検の項目や国土交通省の監査資料をベースにし、改めて評価を行わないようにする。

◆第三者評価の評価項目について（資料②参照）

- ・ 昨年度に作成した評価項目についての説明を行う。
- ・ 効率的、効果的ではないものは削ってゆく。
- ・ 質の保証、質の向上のため、どのように運用しているか、どのようにチェックし、改善しているかについて一覧でまとめている。
- ・ 実際の評価は、点数制ではなく、改善が必要か否かの2段階評価とする。
 - JAMCA 会員校に序列を付けるのが目的ではないため、点数はつけない。ただし、どのような段階にあるのか、質保証に向かっているかどうかを評価する必要はある。
- ・ 国土交通省の評価（赤丸項目）については、敢えて資料を作る必要はない。
- ・ 具体的に評価委員が「何をするか」「何を評価するか」を他機構の調査にて詰めてゆく。

◆質疑応答

●評価項目を増やす可能性はあるのか？

→できるだけ増やさないように考えている。

※文部科学省では、機関評価ではなく、分野別評価を望んでいる（業界にどのように貢献しているか）

●具体的なスケジュールは？

→未定。ただし、月に1回のペースで委員会を行う（回数は予定通り）。

	●独自の評価機構を作る手順（道筋）は？ →会員校の了解を得ながら、国へ報告し、文部科学省のアドバイスを受けながら構築してゆく。 50校の出費がないように（少なくなるように）する。 ※国が認定したら、自動車整備専門学校の第三者評価となる（JAMCA 会員校だけではない）。 ◆第三者評価の方向性について（資料③参照） ・資料③の内容は、インターネットに公開されているものである。 ・専門学校に対して、第三者評価の意識を高めてゆくものとなっている。 ・第三者評価の補足 高校までは学校関係者評価、大学は第三者評価が必須となっている。 大学は、最終学歴になるため、第三者評価が必要となる。 →専修学校も最終学歴となるため、第三者評価が必要になってくる。 ◆文部科学省、春田様より ・3年計画（今年度は実証実験まで）の事業である。 ・JAMCA で JABEE を参考にしている取り組みは、専門学校の第三者評価に於いて適しているのではないかと期待している。他分野にも波及するようなモデルとして確立してほしい。 →文部科学省でもできる限りのサポートをする。 ◆今後の事業の流れ ・評価項目を固める。 JABEE の評価を参考に、分野別評価の項目を追加してゆく。 ・実証実験の流れを決める。 ◆次回開催について ・次回委員会の前に、第一段階を固める。 ・次回開催日：8/27（木） 場所と時間は、別途連絡する。 ・次回委員会では、評価項目出し、今後のスケジュール、担当などを決める。
--	---



会議名	第2回第三者評価実証実験企画委員会
開催日時	平成27年8月27日（木） 午後1時30分～午後3時10分
場所	専門学校 東京テクニカルカレッジ（東京中野区東中野4-2-3 1104号室）
出席者	専門学校東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 専門学校読売自動車大学校 榎本俊弥 校長 専門学校北九州自動車大学校 清末裕貴 教務課長 専門学校YIC 京都工科大学校 野上悟 教務課長 専門学校広島自動車大学校 古澤幸治 副理事長 校長 関東三菱自動車販売株式会社 飯島邦彦 総務部担当部長 株式会社関東マツダ 総務部人財開発グループ 佐藤広様 元国土交通省 中部運輸局 中川兼彦 整備課長 元専門学校東京自動車大学校 小谷将彦 校長 学校法人小山学園 山本眞 学園長 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	【会議の目的】 第三者評価の評価項目を、原案から実証用としてこの会議にて決定すること 【配付資料】 ・資料-0 平成27年度「JAMCA 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業 ＜JAMCAにおける第三者評価項目の検討＞ ・資料① 職業実践専門課程における第三者評価の在り方の方向性について ・資料② JAMCA 自動車整備士養成分野における第三者評価基準一覧（H26 素案改） ・資料③ JAMCA 自動車整備士養成分野における第三者評価基準一覧（H27 実証実験資料） ・資料④ 自己点検・評価項目における国土交通省監査との整備にかかる一覧表 ・資料⑤ JAMCA 第三者評価提出書類と審査内容（H27 実証実験） 【次第】 1. 開会 2. 第三者評価の概要 3. 各配布資料の説明 4. 意見交換 5. 今後の活動予定について 6. 閉会 【内容】 ◆開会 ・実証実験の受審校は読売自動車大学校と北九州自動車大学校の2校の協力を得られることになり決定した。

- ・初参加委員の紹介と挨拶。

◆第三者評価の概要

第三者評価の概要説明を行う（資料-0に従って説明）。

1. 第三者評価の目的
2. 第三者評価の基本構成

・評価の観点

「職業実践専門課程における第三者評価の在り方の検証の方向性について」の改訂版について説明（資料①参照）

* 評価委員の構成は、JAMCA では 6 名（第三者評価委員会）で考えている。

・ JAMCA 第三者評価の観点（資料②、③、④参照）

- エビデンスがしっかりとした第三者評価とする
- 分野別評価として、質の保証に結び付ける評価とする
- 3 つの柱で評価を行う
 - 自己点検評価に対する評価（機関評価に相当・部分的に分野別に関連）
 - 養成施設指定基準に基づく評価（分野別機関評価）
 - 分野の質保証・特徴化取り組み評価（分野別評価）

* 資料②③の補足

- ・ 自己点検・自己評価の項目が各校で異なるため、JAMCA としての画一的な評価項目を設定するのは難しい。
- ・ 分野別評価（質の保証）について項目に盛り込むと、煩雑な内容になる。
- ・ 国土交通省の指定基準、文部科学省や他校などが認める形で出す。

3. 各組織の委員構成（担当）

調査実施委員会について

北九州自動車大学校は関東の委員が調査、読売自動車大学校は関東以外の委員が調査する。

4. 評価のステップ（スケジュール）

- ・ 各委員会のスケジュールの説明
- ・ 第三者評価の結果について

第三者評価は公開することが前提となっているが、今回はシミュレーションのため、受審校から公開はしない。ただし、本事業の成果報告として公開する。

◆自己点検と国土交通省監査項目について

自己点検評価項目と国土交通省監査との関連について説明を行う（資料④参照）。

◆第三者評価の提出資料と審査内容について

資料⑤についての説明を行う。

- ・ 自己点検 教育理念・目標

	「現状の課題」、「今後の改善方策」、「特記事項」を説明記述 調査委員によるヒアリング ・国土交通省の指定基準に基づく評価 書類提出：監査結果の書類 調査委員によるヒアリング ・教育の質保証・特徴化に向けた取り組み内容の評価 書類提出：各校の特徴ある取り組みや成果についての報告書 調査委員によるヒアリング ◆JAMCA 第三者評価の評価項目について JAMCA としての第三者評価の評価項目について説明を行う（資料③参照）。 ◆意見交換 ・卒業生の評価はどのようなものになるのか？（資料-0：101～102 行目） →業界が求める人材養成（職業教育）を行っていることのエビデンス（根拠）について、その取り組みと成果を評価の項目とするという意味。 - 社会に出てからの活躍の実績や企業側の評価については卒業生の調査を行わないとできないので、資料の表現を変更する。 ・自己点検評価の提出期日は？ →本日（8/27）から1ヵ月以内。 ・卒業生の追跡調査は、今後求められるのか？ →就職を考えると、企業の評価に基づき、どのような人材を作っていかなければならないか、検討する必要がある。今後は、企業と協力して調査しなければならない。 - 今年度の第三者評価では、内容を変更して評価する。 ・質の保証について（資料-0：100 行目）、当たり前だと思っていることでも明示する必要があり、このため JAMCA 内では周知されていることであっても、進んでアピールする必要がある。JAMCA として取り組んでいることも学校側がそれに参加し取り組んでいけばエビデンスになる。（ソーシャル検定などの内容） ・課程によって内容が異なるが、学校として評価するのか、課程として評価するのか？ - 学校によって設定課程が異なる場合があるが、どのようになるのか。 →職業実践専門課程では、課程ごとの評価が原則。1 級・2 級の課程別で捉えたい。 ・今までの自己点検評価の項目を変更しなければならないのか？ →現時点では各校の自己点検評価項目を尊重し、JAMCA の評価項目を決めて押し付けない方が良く考える。実証実験ではそのように行う。 - 課題・問題・文部科学省からの指導が発生したときに検討する。 ・卒業生の評価を整備振興会で調査した方がいいのではないか？各校調査の必要性があるか。 - 整備振興会は業界代表であり評価のヒアリングも有効ではないか。 ・卒業生の調査については、今後、文部科学省では重要視されるのではないかと
--	---

	各校調査の必要性があるのではないか？両面で考えていた方がいいのではないか。 ・企業側としては、卒業生の様子について学校へのフィードバックを協力する。 フィードバックの仕組みを作れば、相互利益になるのではないか。 →JAMCA として、卒業生の現状把握（企業側・業界団体）を行う意義はあり今後の課題とする。 ・短期で辞めてしまう人（現状の課題）と、活躍する人など様々な人材がいる。 →第三者評価の結果の課題が、全体的な学校関係者評価につながることを期待する。 人材などについての情報交換ができる。 ◆今後の活動予定について ・7日の研修会では、評価項目、評価方法等を聞いた上で、実際の評価に活かしてゆく。 ・受審する学校は、9月27日までに資料を提出する。 ・評価者研修を受けた評価者が、10月にヒアリング、調査を行う。 ・自己点検評価で行っている項目内容で評価を行う。 ・次回委員会は、9/7（月）に開催。
--	--



会議名	第3回第三者評価実証実験企画委員会および第2回調査実施委員会 合同会議
開催日時	平成27年9月7日（月） 午前11時00分～午後12時30分
場所	専門学校 東京テクニカルカレッジ（東京中野区東中野4-2-3 1101号室）
出席者	専門学校東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 専門学校読売自動車大学校 榎本俊弥 校長 専門学校北九州自動車大学校 清末裕貴 教務課長 専門学校YIC 京都工科大学校 野上悟 教務課長 専門学校広島自動車大学校 古澤幸治 副理事長 校長 株式会社関東マツダ 総務部人財開発グループ 佐藤広様 専門学校日産栃木自動車大学校 高岡能正 校長 専門学校群馬自動車大学校 橋本暁夫 校長代行 専門学校関東工業自動車大学校 合津正彦 事務局マネージャー 専門学校東京自動車大学校 高橋博 副校長 専門学校トヨタ東京自動車大学校 藤川龍彦 教育部次長 熊本工業専門学校 遠藤禮一郎 副学長 元国土交通省 中部運輸局 中川兼彦 整備課長 専門学校静岡工科自動車大学校 平井一史 校長 元専門学校東京自動車大学校 小谷将彦 校長 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	【会議の目的】 8/27（木）に行った第三者評価実証実験企画委員会での内容を受けて、第三者評価実証実験企画委員と調査実施委員で認識を共有すること 【配付資料】 ・資料-0 平成27年度「JAMCA 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業 ＜JAMCAにおける第三者評価項目の検討＞ ・資料① 職業実践専門課程における第三者評価の在り方の方向性について ・資料② JAMCA 自動車整備士養成分野における第三者評価基準一覧（H26 素案改） ・資料③ JAMCA 自動車整備士養成分野における第三者評価基準一覧（H27 実証実験資料） ・資料④ 自己点検・評価項目における国土交通省監査との整備にかかる一覧表 ・資料⑤ JAMCA 第三者評価提出書類と審査内容（H27 実証実験） ・資料⑥ 第三者評価実証実験スケジュール ・資料⑦ 第三者評価実証実験企画委員会（8/27）議事録

【次第】

1. 開会
2. 第三者評価の概要説明
3. 今後のスケジュールについて
4. 質疑応答
5. 閉会

【内容】

◆開会

- ・開会の挨拶、及び本日の議事についての説明
- ・調査実施委員の紹介

◆第三者評価の概要説明

配付資料-0 に従って、第三者評価の概要説明を行う（配付資料-0、及び資料①～⑦参照）。

◆第三者評価実証実験の今後のスケジュールについて

- ・受審校は、9月27日までに書類を提出する（資料⑤Ⅰ～Ⅲの内容）。
- ・調査実施委員は、提出書類を確認した上で受審校を訪問調査する。
 - * 実地訪問調査では、委員長と企画委員会も同行する。
- ・10月下旬に実地訪問調査を実施予定。

◆質疑応答

- ・「大項目についてのみ」（資料-0：87行目）評価を行うのか？
 - 個別の項目を点数で評価するのではなく、大項目（10項目）ごとに評価する方向。
- ・国土交通省の監査項目は質の保証であり、質の向上としての評価にあたるのか？
 - 教育内容が現状の社会で求められているものかどうかを評価しているので、質の向上の評価となる。例えば、教科書が古いなど、古い情報を教えているのでは質の向上にはつながらないと判断される。
- ・評価項目の大項目は可否で評価するが、「4（適切）～1（不適切）」の評価も行うのか？
 - 第三者評価では点数での評価をしない。自己点検評価で「4（適切）～1（不適切）」の評価をする。
各校の自己点検評価項目は、評価機構や文部科学省の項目、各校独自で作成した項目であり、共通していない。そのため JAMCA では、自己点検評価項目を基に小項目を決定するのは適切ではないと判断した。よって JAMCA としては、各校で現状行っている自己点検評価の結果を受けて、評価する。
- ・「Ⅱ国土交通省自動車整備士一種養成施設指定基準に基づく評価」とは、国土交通省の監査の受審結果報告書を提出すれば良いのか？別途レポートを作成する必要はあるのか？

	→国土交通省からの結果報告書の提出を想定している。ただし、調査実施委員が訪問調査を行うときには、国土交通省への提出資料等と一緒に報告（提示）する。 監査以降の変更部分については、変更届を提示する。 ※具体的な準備資料（監査結果報告書、変更届、実績報告など）を明確にする。 →結果報告書だけでは、外部への説得力が弱いため、資料を明確にする。 ・調査実施委員会の調査結果を、第三者評価委員へどのようにして伝えるか？調査結果レポートをどのように作成するのか？ →現在検討中。本日の研修を受けて、伝達方法を決めてゆく方向。 ・第三者評価委員は、直接学校へ行って調査はしないのか？ →どの分野でも、評価委員は学校へ行かない。評価委員は複数の学校の第三者評価をしなければならないため。 ・国土交通省監査の合格結果を確認する資料（書面）がない場合はどのように対応するのか？ →監査結果に問題がない場合は、書面がない可能性がある。 国土交通省で監査資料を提供してもらえるか確認する。 ・第三者評価における自己点検評価は、学校関係者評価も含むのか？ 職業実践専門課程では、自己点検評価・学校関係者評価は必要であるため、文部科学省ではその内容を求められるのではないかと？ →現状、学校関係者評価については想定していないが、追加する可能性はある。 職業実践専門課程では、第三者評価を求められていないため、学校関係者評価を行っている。 今後、第三者評価が実施される場合、学校関係者評価と重複して行うかは疑問であるため、今回は学校関係者評価については、盛り込んでいない。必要に応じて、変更する予定。
--	--



会議名	第3回調査実施委員会
開催日時	平成27年11月11日（水） 午後2時30分～午後3時40分
場所	北九州市立商工貿易会館 福岡県北九州市小倉北区古船場町1-35
出席者	専門学校東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 専門学校読売自動車大学校 榎本俊弥 校長 専門学校北九州自動車大学校 清末裕貴 教務課長 専門学校群馬自動車大学校 橋本暁夫 校長代行 専門学校関東工業自動車大学校 合津正彦 事務局マネージャー 専門学校東京自動車大学校 高橋博 副校長 専門学校トヨタ東京自動車大学校 藤川龍彦 教育部次長
議題等	【会議の目的】 翌日に控えた第三者評価訪問調査を円滑に行うための事前打ち合わせ 【配付資料】 - 資料①：JAMCA 自動車整備士養成分野における第三者評価（事前ヒアリング項目確認シート）調査委員会及び評価委員用 集計 - 資料②：JAMCA 自動車整備士養成分野における第三者評価（調査委員評価シート） 【次第】 1. 開会 2. 第三者評価実証実験の概要 3. 第三者評価実証実験の訪問調査の実施について 4. 第三者評価委員会開催とその後の予定について 5. 意見交換 6. 閉会 【内容】 ◆開会 ・参加委員の紹介と挨拶。 ・開会の挨拶、及び本日の会議目的についての説明を行う。 ◆第三者評価実証実験の概要 ・第三者評価の経緯の説明を行う。 昨年度は主に評価実情の調査を行い、今年度は第三者評価の実証実験を行う。 JAMCA では、現状、第三者評価を行っているところは皆無である。 ・現在、11のコンソーシアムで、第三者評価のシステム作りをし、実証実験を行っている。 ・大学が行っている機関別評価のみではなく、専門学校では分野別評価が必要とされている。 ・他分野の第三者評価は、機関別評価と分野別評価の二階建てが多い。

	・ JAMCA での第三者評価はシンプルに、わかりやすい機関を創ってゆく。JAMCA の特徴として、国土交通省の監査結果を評価項目に盛り込み、第三者評価の負担を軽減する。以下の 4 項目で評価を行う。 1：各校で実施している自己点検評価 2：職業実践専門課程の取り組みと適合について 3：国土交通省の監査結果についての評価 4：質保証に向けた特徴的な取り組み 各校から特徴ある取り組みを提案する。 ・ 最終的な評価は第三者評価委員が行う。 － 最終的な評価は、書類審査で行う。 評価委員が第三者評価を行う（報告書を作成する）ために、調査実施委員が訪問調査を行い、書類を作成する。 ◆第三者評価実証実験の訪問調査の実施について ・ 資料②「JAMCA 自動車整備士養成分野における第三者評価（調査委員評価シート）」についての説明を行う。 － 4 項目ごとにシートを分けている。 小項目ごとに、合・否・NA（判断できない場合）で評価し、項目別に総評を記入する。 ・ 資料①「JAMCA 自動車整備士養成分野における第三者評価（事前ヒアリング項目確認シート）調査委員会及び評価委員用 集計」についての説明を行う。 今回は初めての第三者評価実施ということもあり、評価委員、調査実施委員に事前に資料を渡し、そこから出た質問をまとめた。それらの質問を踏まえ、訪問調査時に確認してほしい。 ・ 翌日のスケジュールの確認を行う。 最長 15：00 には終了する予定。 受審校による概要説明 1 時間、質疑応答 1 時間、その後、学校見学。 ・ 評価委員へ提出する調査結果をまとめる担当を決める。 1：Ⅰ-1～3（橋本先生）、2：Ⅰ-4～6（高橋先生）、3：Ⅰ-7～11（藤川先生）、4：Ⅱ、Ⅲ（合津先生）、5：Ⅳ（佐藤先生） ※担当者は、各調査委員の評価をまとめる。 ・ 訪問調査後の日程について － 各調査委員の訪問調査レポート（基本的に全項目）提出期限は、11/23（月）とする。 各調査委員へ送付する。 － 各委員のレポートを参考に各担当者が評価をまとめ、11/30（月）までに事務局へ送付する。 ◆第三者評価委員会開催とその後の予定について ・ 最終評価結果（報告書）は、第三者評価委員が作成する。 12/18（金）に、第三者評価委員会を行う。 ・ 第三者評価委員会において、JAMCA の第三者評価が決定し、12/24（火）に各校へ評価結果を通知
--	---

	する。評価結果に異議申し立てがあった場合は、調整会議を開く。 ◆受審校（北九州自動車大学校）から ・ 明日は準備資料の提示と口頭での説明を行う予定である。 ◆受審校への要望 ・ 国土交通省の監査時の資料などを準備してほしい。 ◆意見交換 ・ 担当者が調査結果をまとめる上での疑問点などがあった場合は、受審校などに直接問い合わせる。 ・ 項目別の総評に記載する文字数は、200 文字以内を目安とする。 ・ 学校ごとの第三者評価となるため、九州と東京の調査報告書は事務局で別々に扱う。 ・ 実証実験では、学校の欠点を指摘するものではなく、将来、第三者評価を行う上での課題を見出すための調査としたい。 ・ 公開している資料については、成果物としても良い。
--	--



会議名	第4回調査実施委員会
開催日時	平成27年11月12日（木） 午前9時30～午後2時30分
場所	専門学校北九州自動車大学校 福岡県北九州市小倉南区蟻田若園 1-2-24
出席者	専門学校東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 専門学校北九州自動車大学校 清末裕貴 教務課長 専門学校北九州自動車大学校 池田広孝 校長 専門学校北九州自動車大学校 中村仁 事務局長 専門学校読売自動車大学校 榎本俊弥 校長 専門学校群馬自動車大学校 橋本暁夫 校長代行 専門学校関東工業自動車大学校 合津正彦 事務局マネージャー 専門学校東京自動車大学校 高橋博 副校長 専門学校トヨタ東京自動車大学校 藤川龍彦 教育部次長
議題等	【会議の目的】 北九州自動車大学校にて第三者評価実証実験を実施する 【配付資料】 ・ 第三者評価実証実験資料 (HP 公開資料一式) ・ 学校パンフレット 【閲覧資料】 ・ 教務運営資料 ・ 規則規程集 ・ 財務資料 ・ 国土交通省監査資料一式 ・ 国土交通省実績報告 ・ 国土交通省変更届 【次第】 1. 開会 2. 第三者評価表に沿った説明 3. 質疑応答 4. 校内視察 5. 閉会 【内容】 ◆開会 ・ 開会の挨拶、及び本日の流れについての説明 ・ 調査委員の紹介

	◆第三者評価 評価表に沿った説明 池田校長及び清末教務課長による説明 中村事務局長より組織及び学校運営に対する説明。 ◆質疑応答 各調査委員による質問及び池田校長、中村事務局長及び清末教務課長による回答 ◆校内視察
--	---



会議名	第5回調査実施委員会
開催日時	平成27年11月17日（火） 午後5時00分～午後6時10分
場所	JAMCA 事務所（東京都新宿区大京町31番地 ヴィップ新宿御苑1101号）
出席者	専門学校東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 専門学校読売自動車大学校 榎本俊弥 校長 専門学校北九州自動車大学校 清末裕貴 教務課長 専門学校日産栃木自動車大学校 高岡能正 校長 熊本工業専門学校 遠藤禮一郎 副学長 元国土交通省 中部運輸局 中川兼彦 整備課長 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	【会議の目的】 翌日に控えた第三者評価訪問調査を円滑に行うための事前打ち合わせ 【配付資料】 ・資料①：JAMCA 自動車整備士養成分野における第三者評価（事前ヒアリング項目確認シート）調査委員会及び評価委員用 集計 ・資料②：JAMCA 自動車整備士養成分野における第三者評価（調査委員評価シート） 【次第】 1. 開会 2. 第三者評価実証実験の概要 3. 第三者評価実証実験の訪問調査の実施について 4. 第三者評価委員会開催とその後の予定について 5. 意見交換 6. 閉会 【内容】 ◆開会 ・開会の挨拶、及び本日の会議目的についての説明を行う。 ・配付資料の確認を行う。 ・翌日のスケジュールの確認を行う。 最長14：30位には終了する予定 ◆第三者評価実証実験の概要 ・現在、11のコンソーシアムで第三者評価のシステム作りをし、実証実験を行っている。 JAMCA では、現状、第三者評価を行っているところは皆無である。第三者評価の経験がないところから、検討して勉強しながら事業を進めている。 ・JAMCA での第三者評価はシンプルに大きな4項目で評価を行う。

	1：各校で実施している自己点検評価 2：職業実践専門課程の取り組みと適合について 3：国土交通省の監査結果についての評価 4：質保証に向けた特徴的な取り組み 業界に向けての教育ができていないか、実績を上げているか、そのための工夫をしているか等の分野別評価を各校から提案する。各校からの発信型の評価とする。 ※上記の4本柱がJAMCAの特徴である。今までの自己点検評価項目に入れ込んだ形にした。 ・最終的な評価は第三者評価委員が行う。 － 第三者評価は、国が認めた評価機構が行うが、今後はJAMCAが主導で評価機関の創設に向け検討を進める。最終的には、外部の業界を知る有識者が評価を行うようにする。 － 最終的な評価は、書類審査で行う。 調査実施委員が訪問調査を行い、書類を作成する。そのため、事前に評価のポイントをイメージし、訪問調査での学校からの説明や質疑応答の結果で各自が評価を行う。 各自の評価を取りまとめた書類を第三者評価委員へ渡し、第三者評価委員が最終審査を行う。 ◆第三者評価実証実験の訪問調査の実施について ・今回は初めての第三者評価実施ということもあり、評価委員、調査実施委員、事前に資料を渡し、そこから出た質問をまとめた（資料①参照）。訪問調査の前に確認してほしい。 ・資料②「JAMCA 自動車整備士養成分野における第三者評価（調査委員評価シート）」についての説明を行う。 － 4項目ごとにシートを分けている。 小項目ごとに、合・否・NA（判断できない場合）で評価し、項目別に総評を記入する。 ※評価機構の調査委員が行っている方法である。 ・評価をまとめる担当を決める。 1：Ⅰ-1～3（高岡先生）、2：Ⅰ-4～6（遠藤先生）、3：Ⅰ-7～11（佐藤先生）、4：Ⅱ、Ⅲ（中川先生）、5：Ⅳ（佐藤先生） ※担当者は、各調査委員の評価（基本的に全項目）をまとめ、最終コメントを最低1行記載する。 コメントの文字数制限はなし。多くても200文字以内とする。 ・訪問調査後の日程について － 各調査委員のレポート提出期限は、11/30（月）とする。事務局へ送付する。 － 各担当者が評価をまとめ、12/7（月）までに事務局へ送付する。 － 佐藤先生が最終的なまとめを行い、第三者評価委員へ送付する。 ※前回受審校の清末先生は、オブザーバーとして参加する。 ※事務局長は、コメントがあれば記載する。 ◆第三者評価委員会開催とその後の予定について ・最終評価結果（報告書）は、第三者評価委員が作成する。 12/18（金）に、第三者評価委員会を行う。そのため事前に、12/2（水）に九州の調査結果を、その1週間後に東京の調査結果を第三者評価委員へ送る。
--	--

	・第三者評価委員会において、JAMCA の第三者評価が決定し、12/24（火）に各校へ評価結果を通知する。評価結果に異議申し立てがあった場合は、調整会議を開く。 ・第三者評価の評価結果については、JAMCA では HP で公表しない。成果報告書での報告とする。成果報告書で学校名の記載については、各校の意向で判断する。 ◆受審校（読売自動車大学校）から ・九州での訪問調査の結果を受けて、明日は項目Ⅰ（自己点検評価に対する評価）をベースに説明を行う予定である。中心は、学生便覧とパンフレット等の資料を見もらう。 ・用意できなかった資料や質問があれば、その場で用意する。 ・データの資料については、PC で見ていただく。 ・時間に余裕があれば、学校内を見学してほしい。 ◆受審校への要望 ・データ資料閲覧のために、プロジェクタを準備してほしい。 ・学校案内を準備してほしい。 ◆意見交換 ・第三者評価の訪問調査によって、受審校とのコミュニケーションをすると学校の特徴が見えてくる。第三者評価がそれらを確認する場になれば、今後に生きてくる。外部から見れば、新鮮に見えることもあるため、良いところはきちんと評価する等、第三者評価を良い機会にしていきたい。 ・前回受審校（九州）より 色々なアドバイスをいただけてありがたい。多くの指摘をいただきたかったが、時間不足だったため叶わなかった。 ・時間の都合で質問ができないことについては、後から応じていただけるよう協力してほしい。 ・学校関係者評価の総合結果ではなく、項目別の評価結果を確認したい。前年度の評価結果を基に、今年度の評価をする方法もあり、前年度との比較、及び何がどのように改善されたのかを知りたいため。 →項目別の評価結果、及び 25 年度分の資料を準備する。 ※次年度の事業計画にも影響するため、学校関係者評価を吸収するタイミングが重要である。 そのための体制とシステムが必要である。
--	---



会議名	第 6 回調査実施委員会
開催日時	平成 27 年 11 月 18 日（水） 午前 9 時 30～午後 2 時 30 分
場所	専門学校読売自動車大学校（東京都江東区亀戸 2-28-5）
出席者	専門学校東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 専門学校読売自動車大学校 榎本俊弥 校長 専門学校読売自動車大学校 佐藤誠 事務局長 専門学校北九州自動車大学校 清末裕貴 教務課長 専門学校日産栃木自動車大学校 高岡能正 校長 熊本工業専門学校 遠藤禮一郎 副学長 元国土交通省 中部運輸局 中川兼彦 整備課長 専門学校静岡工科自動車大学校 平井一史 校長 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	【会議の目的】 読売自動車大学校にて第三者評価実証実験を実施する 【配付資料】 ・ 第三者評価実証実験資料 (HP 公開資料一式) ・ 学校パンフレット 【閲覧資料】 ・ 学生便覧 ・ 教務運営資料 ・ 規則規程集 ・ 財務資料 ・ 国土交通省監査資料一式 ・ 国土交通省実績報告 ・ 国土交通省変更届 【次第】 1. 開会 2. 第三者評価 評価表に沿った説明 3. 質疑応答 4. 校内視察 5. 閉会 【内容】 ◆開会 ・ 開会の挨拶、及び本日の流れについての説明

	・調査委員の紹介 ◆第三者評価 評価表に沿った説明 榎本校長及び佐藤事務局長による説明 ◆質疑応答 各調査委員による質問及び榎本校長及び佐藤事務局長による回答 ◆校内視察
--	---



第三者評価委員会

会議名	第1回 第三者評価委員会
開催日時	平成27年12月18日（金） 午後1時00分～午後3時00分
場所	JAMCA 事務所（東京都新宿区大京町31番地 ヴィップ新宿御苑1101号）
出席者	専修学校中部国際自動車大学校 齋木寛治 理事長 元国土交通省 自動車局 樋口忠夫 技術安全部長 元日本自動車車体整備協同組合連合会 丸山憲一 会長 元国土交通省 中部運輸局 中川兼彦 整備課長 専門学校東京工科自動車大学校 佐藤康夫 校長 専門学校静岡工科自動車大学校 平井一史 校長 元専門学校東京自動車大学校 小谷将彦 校長 JAMCA 大西純一 事務局長
議題等	【会議の目的】 実証実験の取りまとめ及び今後の進行について 【配付資料】 ・北九州自動車大学校の調査評価資料 ・読売自動車大学校の調査評価資料 ・担当者分担表 【次第】 1. 開会 2. 実証実験取りまとめについて 3. 質疑応答 4. 閉会 【内容】 ◆開会 ・開会の挨拶、及び本日の流れについての説明 ◆第三者評価について ・佐藤委員長による JAMCA 第三者評価の体制及び記載担当についての説明 ◆北九州自動車大学校調査報告の説明 ・佐藤委員長による調査報告と第三者評価についての説明 ◆読売自動車大学校調査報告の説明

	・佐藤委員長による調査報告と第三者評価についての説明 ◆今後のスケジュールとまとめ ◆報告書制作における日程・章立て・分担について 第1章 事業の内容 担当：大西事務局長 第2章 事業の目的及び内容 担当：小谷先生 第3章 実施経緯とスケジュール 担当：齊藤 第4章 第三者評価等啓発委員会 担当：平井校長 第5章 第三者評価 実証実験委員会 担当：佐藤校長 第6章 今年度事業のまとめと今後の取り組み 担当：齋木校長・佐藤校長 ◆質疑応答 ◆次回予定 ・今回の会議で第三者評価委員会の委員への説明・委員間での討議は十分に行われた。今後、委員の原稿確認は事務局経由（メール等）で行うこととした。 ・報告会については平成28年2月15日（月）・17日（水）で調整
--	---



